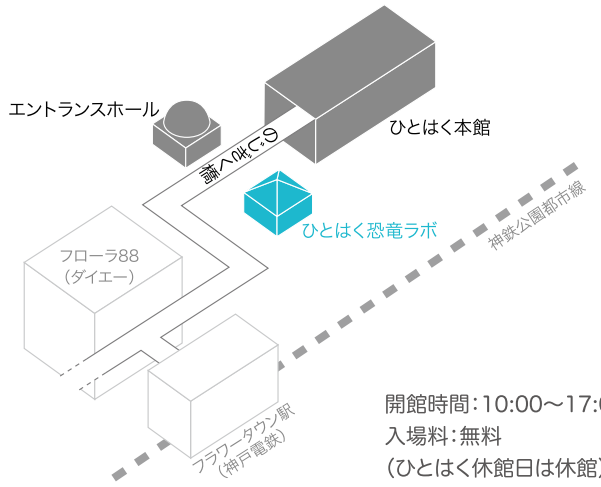
OPEN

ひとはく恐竜ラボがオープンしました

ひとはく恐竜ラボが4月20日(日)人と自然の博物館本館前にオープンしました。ひとはく恐竜ラボでは、丹波市で発掘された恐竜化石のクリーニング作業が行われている様子を見ることができます。オープン当日は、丹波市長など多数の来賓をお迎えしてテープカットが行われた後、ひとはくセミナークラブの子どもたちも交えて、第二次発掘で作成された最大のプラスタージャケットにのこぎりが入れられました。

ひとはく恐竜ラボでは、第二次発掘で作成されたうち、大きなもの二つの他、第一次発掘で得られた最大のプラスタージャケットもごらんいただけます。プラスタージャケットを開いた後は、そのままの状態でラボ内でクリーニングを進め、化石の産状が十分にわかる状態になったところで、産状レプリカを作るための型どりが行われます。その後個々の骨を地層からはずしてクリーニングを進め、骨格標本とします。したがって、実物の化石が地層の中に埋まっている状態を見ることができるのは今しかありません。多数のお客様のご来場をお待ちしています。

(古谷 裕：自然・環境評価研究部)



開館時間：10:00〜17:00
入場料：無料
(ひとはく休館日は休館)

キリンビール神戸工場ビオトープの試み

神戸市北区赤松台のキリンビール神戸工場と人と自然の博物館は協働して、工場内のビオトープについ30年前まではごくあたりまえであった里のため池を再現し、さらに絶滅危惧種カワバタモロコ保護活動の拠点となる活動を展開しています。2002年から2003年にかけて、メダカやモツゴまたトウヨシノボリなど、かってため池に普通にいた魚に加えて、兵庫県でも絶滅が心配されているカワバタモロコ241個体を水系を越えない最も近いため池から移殖しました。

の絶滅を回避できるか!?

● 環境学習として活用

これら移殖した魚たちが、増えるのかあるいはいなくなってしまうのかを確認するモニタリング調査を、小学校の生徒とともにビオトープ観察会で実施しています。観察会では、五つのトラップを30分間沈めてその中に入った魚を数えます。トラップに百匹を越すカワバタモロコが入るので、みんな大喜び、引き上げ時には歓声がわきます。移殖一年後の2003年には4000匹以上のカワバタモロコが採れ、採集された数だけでも一年で20倍近くに増えたことになります。ところがその後カワバタモロコの数は減少し、2005・2006・2007年には1000匹程度になり、現在その数は安定しているようです。

● 祥雲館高校との連携学習

トラップではビオトープ池全体のカワバタモロコのうち何割くらいが採れているのでしょう？採集個体数という相対的な値ではなくビオトープ池のカワバタモロコの総数を、三田市にある祥雲館高校の生徒とともに2005年より「標識再捕法」により調べています。その方法は、一日目にトラップで採集したカワバタモロコのヒレを切るという印をして生かしたまま放流します、そして二日目に採れた魚の総数とそのうちヒレが切れている魚の数から池全体の総数を推定します。2005年には3200匹、2006年2700匹、2007年2700匹という値を得て、カワバタモロコの数がここ数年安定していること、トラップでは総数のおよそ3割程度が採集されていることが確認できました。

● 放流ガイドライン

現在兵庫県でカワバタモロコの住んでいる池は20〜30ヶ所程度と考えられ、「風前のともしび」状態、2007年秋にはビオトープ導入元の池で絶滅してしまった模様。ただキリンビール神戸工場ビオトープでの試みにより、カワバタモロコは競争種や捕食者がいなければかなり簡単に増えるという実感を得ることができました。次に解決すべき課題は、どの地域・流域内であれば放流が許されるのかという、遺伝的多様性を考慮した放流ガイドラインの策定です。姫路市立水族館・須磨海浜水族園・兵庫水辺ネットワーク・野生生物を調査研究する会・人と自然の会のみなさんと協働して、DNA分析用の標本を集めています。ちょっと痛そうですが生きたままヒレ一枚を戴くだけで分析は可能で、魚まるごとの標本は必要ではありません。新たな分布情報がありましたら人と自然の博物館まで連絡をお願いします。

(田中 哲夫：自然・環境マネジメント研究部)
(佐藤 裕司：自然・環境評価研究部)

ひとはく最新ニュース

篠山市で、日本最古とみられる哺乳類の化石が発見されました。今後、ひとはくでクリーニング作業をして、詳しく調査、研究していきます！

哺乳類の右下顎の化石

編集後記

ひとはく新聞は、満1歳を迎えました。とにかく育ての親としてはホッとしています。今後も、編集員一同、充実した盛りだくさんの内容を企画していきますので、引き続き皆様のご支援をいただきながら、成長していきたいなと思っています。

(小林 美樹：生涯学習課)

ひとはく新聞2008｜6｜30号

発行：兵庫県立人と自然の博物館

〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘6丁目

079-559-2001(代表)

発行日：2008年6月30日

編集長：小林 美樹

編集：【広報・出版支援担当】
鈴木武・古谷裕・三谷雅純
赤澤宏樹・嶽山洋志・山崎義人
【生涯学習課】
平松紳一・春名潤一・矢野啓司
藤原圭祐

印刷：ウニスガ印刷(株)